

倫理委員会審議内容

令和1年9月19日開催

No.1	申請者：看護師 渡久平 綾子	
課 題	精神科慢性期病棟における間食のあり方への検討	
研究の概要	<p>A病棟は、精神科病院の慢性期病棟で、数十年に渡る長期入院患者が多数を占めている。これまで病棟では、長年療養生活を送る患者の楽しみの1つとして、間食の時間を毎日設けていた。しかし、食事以外に間食を続けることで、過剰なカロリー摂取となっており、多くの患者で体重増加や、身体合併症の併発が懸念されたことから、間食の見直しを行う必要があると考えた。そこで、閉鎖処遇を受けている患者に対して、去年までは毎日設けていた間食の時間を今年の1月から週に1回とした。実施から8ヶ月が経過し、患者のほとんどに体重減少がみられるようになった。しかし、間食は療養生活の大きな楽しみであるため、看護職員の間では患者の希望通りにしたいという思いと、患者の安全や健康を守るためにはある程度の管理が必要という考えがあり、スタッフ間でも患者への対応が統一されていない状況がある。今回の研究では病棟のルール変更から8ヶ月が経過した現在の状況の評価することを目的として、看護職員の間食に対する意識調査を行う。</p> <p>研究への同意が得られた病棟スタッフに間食についての考え方や意識を無記名でのアンケート調査で行う。</p>	
判 定	承認	
利益相反審査判定		承認

倫理委員会審議内容

No.2	申請者：看護師 山内 恵梨香	
課 題	アルコール家族教室に参加する家族の思い ～家族へのインタビューを通して～	
研究の概要	<p>A病棟では、アルコール・薬物依存症患者の家族を対象に平成26年から多職種によるCRAFTプログラムを取り入れた家族教室を行っている。</p> <p>家族教室は、グループ単位の家族に依存症者本人の状況を聞き情報共有や家族間の交流、また、CRAFTプログラムや医師による依存症についてのレクチャーなどを行っている。家族と実際に関わる中で、家族や依存症者本人の近況、今困っている事等聴く場面はあるものの、家族が参加して良かったこと、心境の変化などを個別で話を聴く機会がなかった。その為、これまで自分達が行ってきた家族支援が参加した家族や本人にとって、どのような影響を与える事ができたのか明らかにしていない。</p> <p>今回、家族に焦点を当てた研究を通して、家族教室が家族のコミュニケーション行動や本人との関係性、心境にどのような変化があったのか検証したいと考えた。</p> <p>研究対象者は、家族教室に継続参加されている1名を対象者として選定する。</p>	
判 定	承認	
利益相反審査判定		承認